

カセットガスインバータ発電機

持込修理

取扱説明書・本体表示などの注意書きに従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無償修理いたします。製品と本書をご持参のうえ、お買い上げの販売店にお申しつけください。修理で依頼品の送料、ご持参される場合の諸経費はお客様のご負担となります。

型 名	23907		販売店印、お買い上げ日 または、レシート貼付
※お客様	お名前	☎	
	ご住所	〒	
※お買い上げ日 年 月 日	※販売店名・住所		
保証期間 お買い上げ日より 本体1年	☎		

※印欄にご記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- 1.ご転居・ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、当社にご連絡ください。
- 2.保証期間内でも次の場合には有償修理になります。
 - (イ)使用上の誤りや不当な修理・改造による故障および損傷。
 - (ロ)お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷。
 - (ハ)火災・地震・水害・落雷・その他の天変地異・公害・塩害・虫害・ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧・指定外の利用電源(電圧・周波数)などによる故障および損傷。
 - (ニ)極端な連続使用、過負荷での使用、酷使による不具合。
 - (ホ)本書のご提示がない場合。
 - (ヘ)本書にお客様名・「販売店印及びお買い上げ日」又は、「販売証明書やレシート」が無い場合、あるいは字句を書き換えられた場合。(通信販売の場合は購入日付入りの購入明細を印刷して添付)
 - (ト)転売又はオークションで落札された商品の場合。
 - (チ)本製品に接続した当社付属品以外の使用機器、電気機器の故障や破損については、当社は一切の責任を負いかねます。
 - (リ)本製品に接続した電気機器に登録されたメモリの消失、ICカードのデータやチャージマネーの保全、サービスの回復に関し、当社は一切の責任を負いかねます。
 - (ヌ)時の経過による変化で発生した不具合。(外観部品の退色、使用による傷など)
- 3.本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 4.本書は盗難・火災などの不可抗力以外で紛失された場合は再発行いたしませんので大切に保管してください。

- お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。
- この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を保証している者(補償責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または当社にお問い合わせください。

お客様の個人情報は、上記の目的以外には、一切使用いたしません。

発売元
与板利器工業株式会社
〒955-0845
新潟県三条市西本成寺1丁目33番地16号
TEL0256-35-4311

お客様サービスセンター
株式会社ティーエム
〒959-1288
新潟県燕市燕1065番地2
TEL0256-47-1994

Holiy

カセットガスインバータ発電機

23907

取扱説明書

保証書付き



もくじ

安全上のご注意	2～3 ページ
使用するカセットボンベの取り扱い ..	4 ページ
各部の名称	5 ページ
仕様	6 ページ
付属品	7 ページ
使用前点検	7～8 ページ

使用方法

1. エンジンの始動	9～13 ページ
2. エンジンの停止	13～14 ページ
3. 交流電源の取り出しかた	14～16 ページ
4. 直流電源の取り出しかた	16～19 ページ
5. USB 電源の取り出しかた	20～21 ページ

定期点検	21 ページ
------------	--------

メンテナンス

1. エンジンオイルの交換	21～23 ページ
2. エンジンオイルの選びかた	23 ページ
3. エアフィルタの清掃	24～25 ページ
4. マフラの清掃	25 ページ
5. 点火プラグの清掃	26 ページ
6. 長時間使用しない場合	27 ページ
7. その他	27 ページ
8. 運搬方法	27 ページ

故障かなと思ったら	28 ページ
-----------------	--------

保証書	32 ページ
-----------	--------

このたびは、**Holiy**「インバータ発電機」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用の前に必ず取扱説明書をお読みください。なお、この取扱説明書は大切に保管してください。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産の損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を、次の区分で説明しています。

 **警告** 死亡や重傷に結びつく恐れがある内容です。

 **注意** 軽傷または家屋・家財などの損害に結びつく恐れがある内容です。

■お守りいただく内容を次の区分で説明しています。

 **してはいけない「禁止」内容です。**

 **実行しなければならない「指示」内容です。**

警告



分解禁止

分解、修理や改造を絶対に行わない
発火・感電・けがの原因になります。修理は、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。



本機を他人に貸すときは、必ず取扱説明書を一緒に添付してください。



禁止

安全作業上で影響が出るような体調不良・薬の服用・飲酒をしているときは絶対に使用しないでください。



エンジン音の異常や作業中に異常を感じた際は、使用をすぐに止め点検、または修理を依頼してください。



発電機は建物や物から1m以上離して運転してください。火災や事故の原因となります。



禁止

本体の周りを囲ったり、カバーを被せたまま運転しないでください。火災や事故の原因となります。



禁止

運転中はもちろん、使用しないときでも本機やエンジンの上に物を置かないでください。破損や故障、思わぬ事故の原因となります。



接触禁止

使用後すぐにエンジンやマフラに触れないでください。やけどの原因となります。



接触禁止

運転中、高電圧コードやプラグキャップに触れないでください。感電の恐れがあります。



禁止

エンジンは作業機に搭載した状態で使用するようにならされていますので、絶対にエンジン単体で始動させないでください。



禁止

電力会社の配線には接続しないでください。火災や感電事故の原因となります。



禁止

運転操作のわからない人、指導を受けていない人には絶対に操作させないでください。お子様には操作させないでください。



禁止

本機についているカバーやラベル、その他の部品を外して使用しないでください。また、改造は絶対にお止めください。



禁止

本機の周囲や下に危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物)を置かないでください。



禁止

この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。(火災の恐れがあります。)



輸送途中の衝撃などにより、本機が破損したり、取り付け部品が曲がったり外れたりする場合がありますので、ご使用前には必ず確認して、正規の状態でご使用ください。



機械を始動させる前に、必ず全てのボルト・ナットなどが適切に締め付けられているかを確認してください。調整用の工具類は使用後すぐに外すようにし、エンジンを始動する前には必ずそれらが外してあることを確認してください。



本機を無人で放置しないでください。



本機を移動する際は必ずエンジンを停止させてから移動させてください。



運転中、本機にお子様を近づけさせないでください。



禁止

指、針金やピンなどの金属物を交流コンセント、アクセサリソケット、USB出力端子に入れたり当てたりしないでください。感電やショートの原因となります。

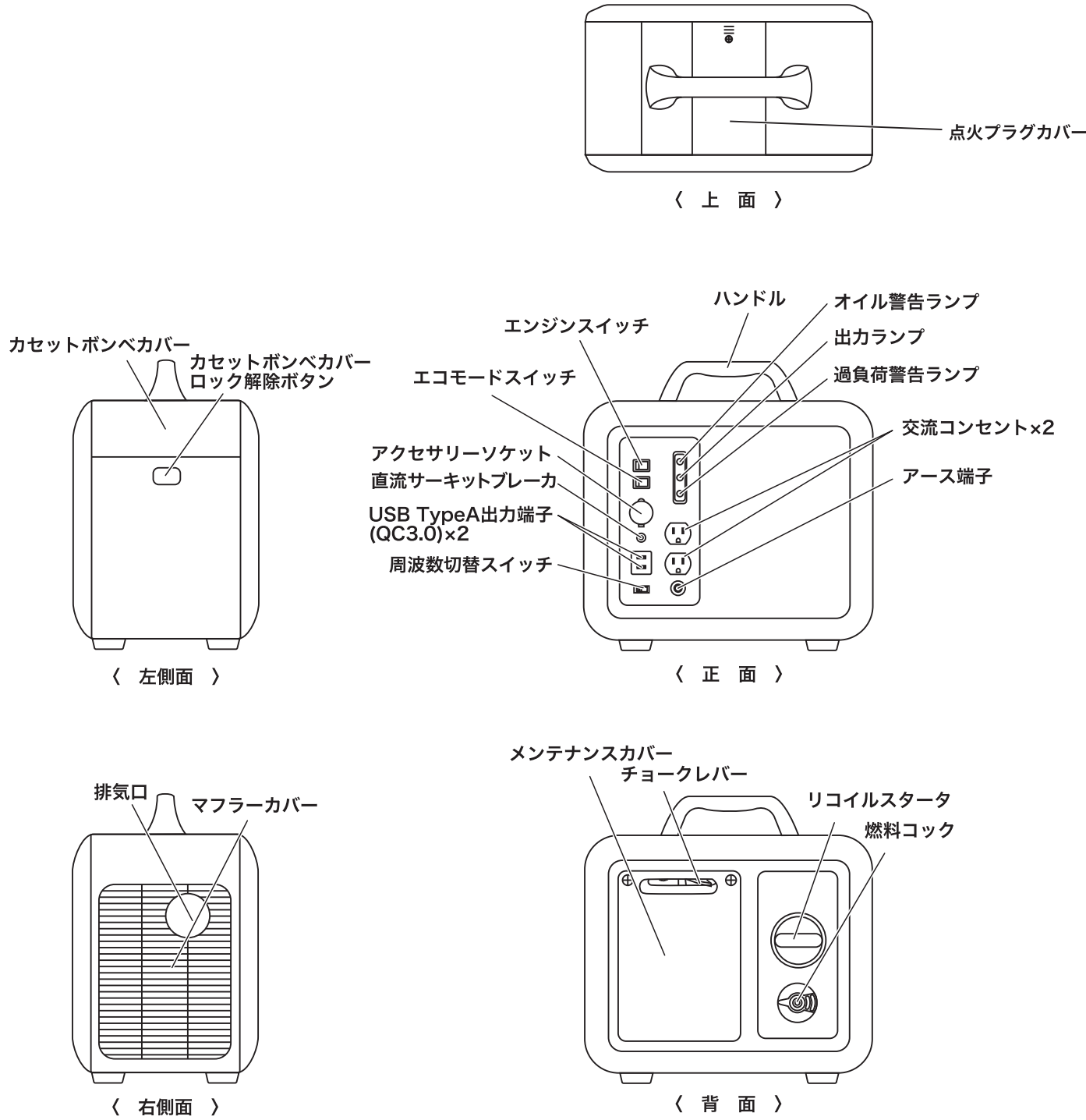
--	--

故障かな？と思ったら

問 題	原 因	対 策
・エンジンが始動しない、またはすぐ停止する。	・燃料が空になっている。	・燃料を交換する。
	・エンジンオイルが入っていない、量が不足している。	・エンジンオイルを規定量入れる。
	・燃料コックが閉側になっている。	・燃料コックを開側にする。
	・点火プラグの汚れ、破損。	・点火プラグを掃除、または交換する。
	・エアフィルタの汚れ。	・エアフィルタを掃除する。
	・マフラキャップ、マフラにカーボンが詰まっている。	・マフラキャップ、マフラの清掃を行いカーボンを除去する。
	・接続した電気機器の電源がONになっている。	・エンジン始動時は電気機器の電源をOFFにする。
	・過負荷警告ランプが点灯している。	・接続機器の消費電力を確認して、発電機の定格出力を超えないように接続する。
	・複数の電気機器を使用するなど定格出力を超えている。	・エンジンスイッチをOFFにして、エンジンを停止する。 ・エンジンを再起動する。
	・暖機運転が足りない。	・暖機運転を行う。
	・外気温が低い。	・5℃～40℃の範囲で使用してください。
	・標高が高い。	・標高1500m以下で使用してください。
・リコイルスタータハンドルが引けない。	・エンジンの焼き付き、リコイルスタータの不具合など。	・お買い求めの販売店、当社へ相談する。
	・過負荷警告ランプが点灯している複数の電気機器を使用するなど定格出力を超えている。	・接続機器の消費電力を確認して、発電機の定格出力を超えないように接続する。 ・エンジンスイッチをOFFにして、エンジンを停止する。 ・エンジンを再起動する。
・電気が取り出せない。 ・電気機器が作動しない。	・電気機器が交流100V仕様でない。	・交流100V仕様の電気機器を使用する。
	・電気機器の周波数と発電機の出力周波数が合っていない。	・発電機と電気機器の周波数を合わせてください。
	・電気機器が故障している。	・電気機器を修理する。
	・上記を確認しても改善が見られない。 →エンジンの故障。	・お買い求めの販売店、当社へ相談する。
・直流サーキットブレーカがONにならない。	・既に ON の状態	・直流サーキットブレーカの飛び出し量を確認する。

上記のことを点検しても変わらない場合には、お買い求めの販売店、または当社までお問い合わせください。

各部の名称



仕様

型 式			23907
発 電 機	交流	周 波 数	50Hz/60Hz(切替式)
		定 格 出 力	1.0kVA
		定 格 電 圧	100V
		定 格 電 流	10A
	アクセサリー ソケット	定 格 電 圧	12V
		定 格 電 流	5A
	USB (QC3.0対応)	定格電圧・電流	5V-3.4A/9V-2.5A/12V-2A(最大24W)
	交 流 コ ン セ ン ト 数		2
	ア ク セ サ リ ー ソ ケ ッ ト 数		1
	U S B 出 力 端 子 数		2
エ ン ジ ン	エ ン ジ ン		空冷4サイクルガスエンジン
	排 気 量		60ml
	使 用 燃 料		液化ブタン
	ガ ス 容 量		500g(カセットボンベ2缶)
	点 火 プ ラ グ		NGK CR7HSA
	始 動 方 法		リコイルスタータ
騒 音 値			約68dB
連 続 使 用 時 間			約2時間～1時間
本 体 寸 法			W425×D235×H400mm
質 量			約12kg

- ※騒音値は7m四方平均値です。
- ※連続使用時間は1/4負荷(エコモードスイッチON時)～定格負荷(エコモードスイッチOFF時)の目安です。条件によって異なります。
- ※上記の仕様は交流、アクセサリソケット、USB各種単独の出力です。各種合計での可能出力は1.0kVAです。交流、アクセサリソケット、USBの電気を同時に取り出す場合は、各出力の消費電力を考慮して接続してください。
- ※製品は改良などのため、予告無く仕様を変更することがあります。
- ※出荷時に試運転を行なっている為下記箇所に使用あとが見られる場合があります。
 - ・オイル注入口キャップ、オイル注入口にオイルが付着している場合があります。
 - ・点火プラグが汚れている場合があります。
 - ・マフラ、マフラキャップ、にカーボンが付着している場合があります。
 - ・エアフィルタにゴミやほこりが付着している場合があります。

6.長時間使用しない場合

- ・カセットボンベを取り外し、冷暗所で保管します。
- ・配管内のガスを抜くため燃料コックを閉じたままエンジンを始動し、ガス欠でエンジンが停止した後にエンジンスイッチをOFFにします。
- ・エアフィルタを清掃します。
- ・リコイルスタータハンドルを軽く引きだし、リコイルスタータハンドルが重くなったところで止め、リコイルスタータハンドルを手を離さずにゆっくり戻します。
(エンジンバルブが閉じ、燃焼室にホコリなどが入らない状態にします。)
- ・各部を乾いた綺麗な布で拭き取り清掃します。

7.その他

- ・定期的にマフラの点検、各部ナット、ネジのゆるみ、燃料の漏れ、オイル漏れなどの確認をしてください。
- ・各部についたゴミやホコリはしっかりと拭き取ってください。また、水洗いはしないでください。

8.運搬方法

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

**警告**



！ 思わぬ事故につながる恐れがありますので、
運搬時は必ずカセットボンベを取り外し、配
管内の残留ガスを使い切ってください。



禁止

車両に積載したまま使用しないでください。

**注意**



禁止

！ カセットボンベが破裂する恐れがありますので、
車のダッシュボード などの直射日光に当
たる場所に置いたり、換気の悪い車内に放置
しないでください。



禁止

発電機の上に重いものを置かないでください。



！

トラックなどで本機を運搬するときは、倒れ
止めなどをしてしっかりと固定し、静かに運
搬してください。運搬中に動いて思わぬ事故
の原因になります。

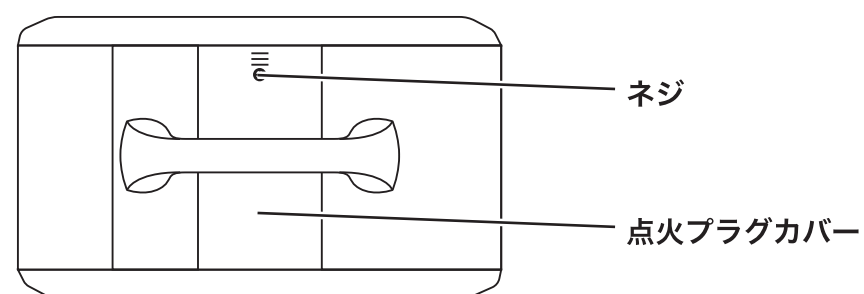
- ①エンジンスイッチを停止の位置にします。
- ②燃料コックを閉側にします。
- ③カセットボンベを取り外します。
- ④車両に積載し、発電機をロープなどで確実に固定します。
※発電機が移動、転倒、落下、破損などしないように積載してください。

6

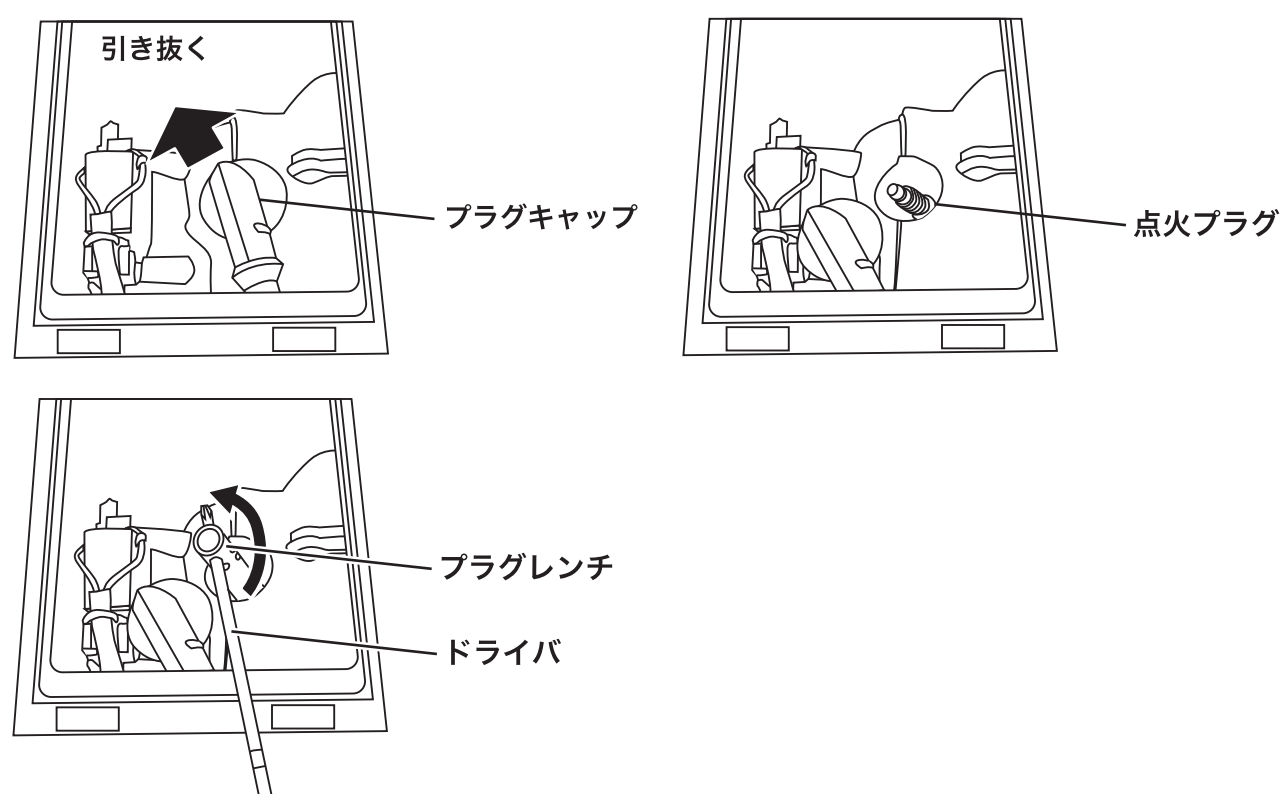
27

5. 点火プラグの清掃

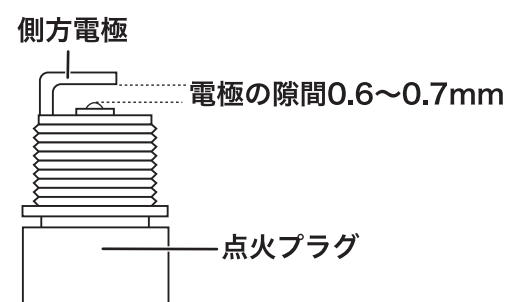
① 点火プラグカバーをとめているネジを外して、点火プラグカバーを取り外します。



② プラグキャップを引き抜き、プラグレンチを使用して点火プラグを反時計方向に回し、外します。
※プラグレンチはドライバを差し込んで使用してください。
※プラグレンチ、ドライバ、点火プラグを本体内に落とさないように注意して作業を行ってください。



③ 電極が汚れている場合には、プラグ用クリーナ(市販品)、ワイヤブラシ(市販品)などでカーボンを落とすか点火プラグを交換してください。
※電極の隙間が大きい場合には、側方電極を曲げて、隙間の調整を行ってください。

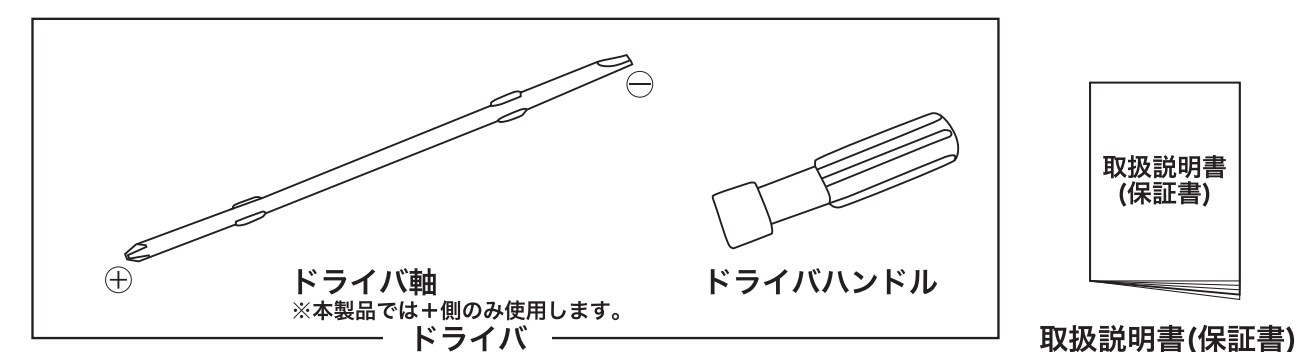
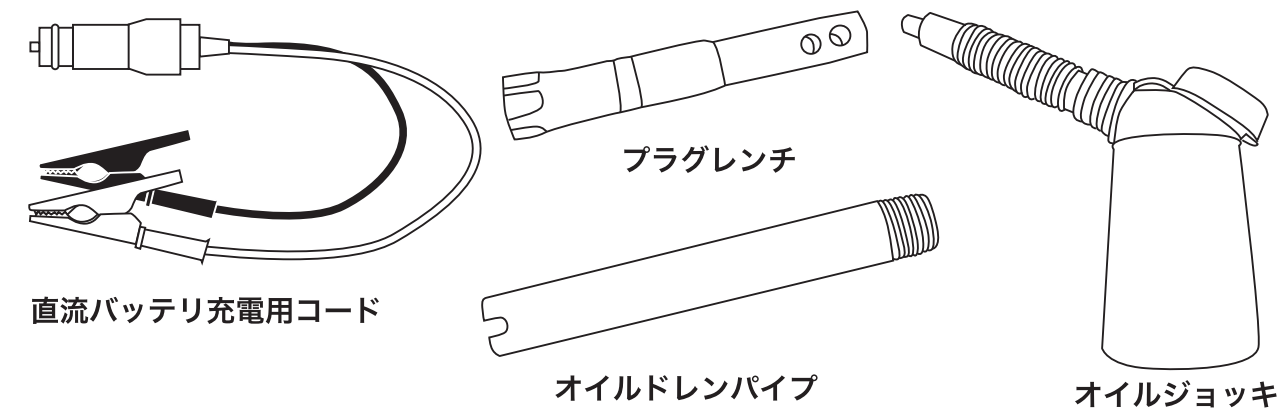


標準プラグ	NGK CR7HSA
-------	------------

④ 点火プラグを締め付けます。

⑤ プラグキャップを取り付け、点火プラグカバーをネジでとめます。

付属品



取扱説明書
(保証書)

取扱説明書(保証書)

使用前点検

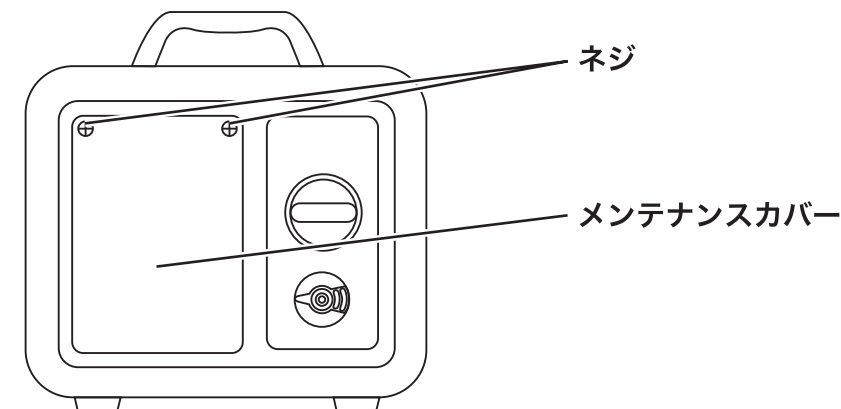
⚠ 警告

⚠ 点検はエンジンを停止して、平坦な場所で発電機が水平な状態で行ってください。

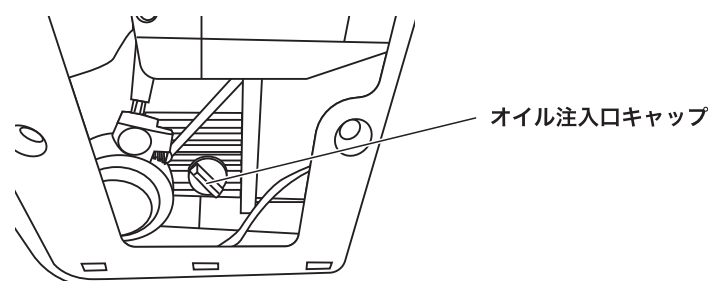
【エンジンオイルの点検】

- ・工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。
- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンが不調になる恐れがあります。
- ・エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。

① メンテナンスカバーをとめているネジを外し、メンテナンスカバーを外します。



②オイル注入口キャップのツマミをゆるめ、オイル注入口キャップを取り外します。

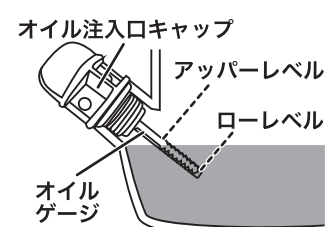


③オイルジョッキを使用して、オイル注入口にオイルを給油します。

エンジンオイル規定量	250ml
推奨エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイル SF級以上 SAE10W-30



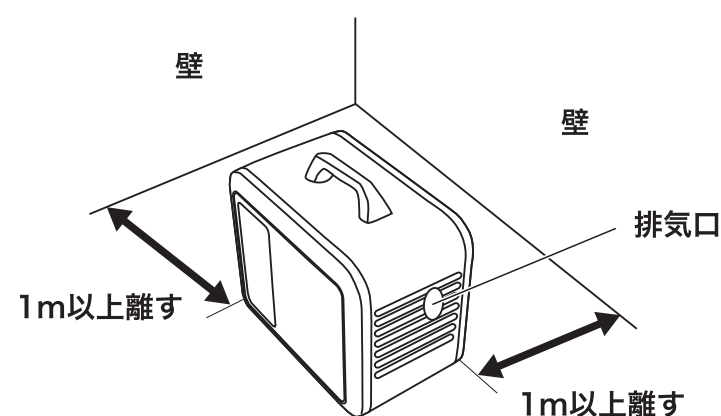
④オイル注入後、オイル注入口キャップを一度締めてから取り外して、オイルゲージのアップーレベルまでオイルがついていることを確認してください。



⑤オイル注入口キャップを締め、メンテナンスカバーを本体へ取り付けネジで止めます。

【発電機使用場所周辺の点検】

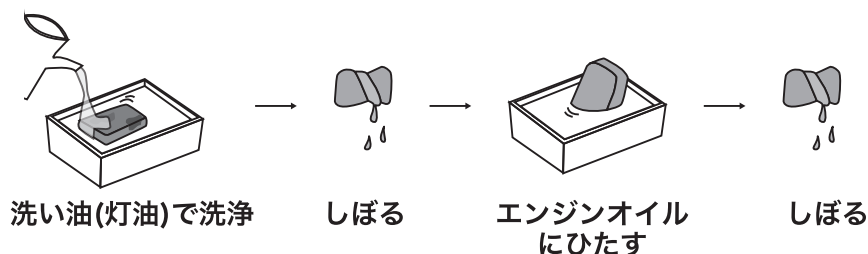
1. 発電機は平らな地面で操作する必要があります。傾斜地を避け水平な場所であることを確認してください。
2. 使用場所が小石、土、砂利など、凹凸のある場所、地面のやわらかい場所は避けてください。やむを得ず使用する場合は、発電機の下に板を敷いて、発電機を安定させてください。
3. 周囲に火気、危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や可燃物(枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなど)が無いことを確認してください。
4. 雨が降っている場所、湿った場所、濡れた場所、発電機に水がかかる様な場所は避けてください。
5. 屋内や排気のこもる場所、換気の悪い場所を避け、風通しの良い場所であることを確認してください。
6. カバー類は、確実に取り付けてください。
7. 建物や物から1m以上離して発電機を設置してください。



警告



洗い油(灯油)は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。洗浄は換気の良い場所で行ってください。

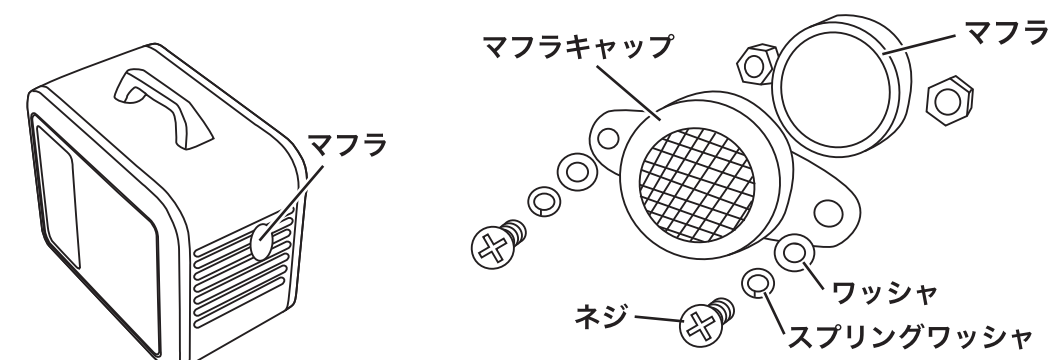


※洗浄してもエアフィルタの汚れがひどい場合や弾力が無くなったり、破れがある場合は、新しいものと交換してください。

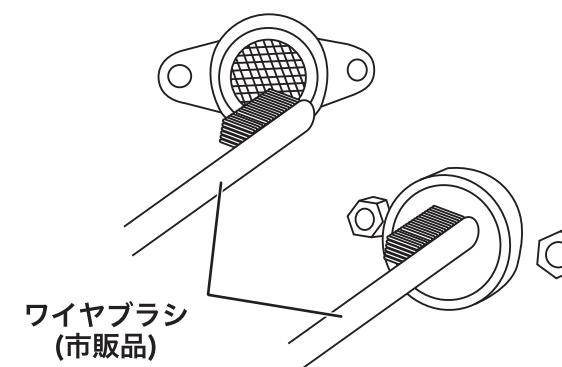
- ⑤清掃後、エアフィルタを取り付け、フィルタカバー、メンテナンスカバーをネジでとめます。
※エアフィルタが汚れていると、エンジンの始動不良や出力不足などの原因となりますので、エアフィルタはきれいにしておいてください。

4.マフラの清掃

- ①マフラキャップをとめているネジを外してマフラキャップを取り外します。
※ネジなどの部品をなくさないよう注意してください。



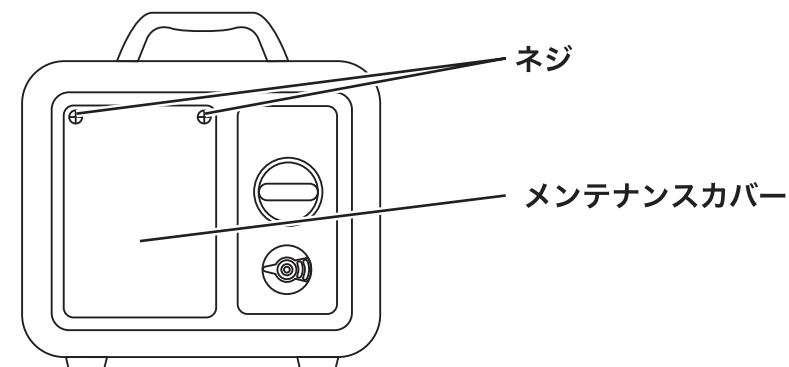
- ②マフラキャップ・マフラの内側に付着したカーボンを、ワイヤブラシ(市販品)などで落としてください。



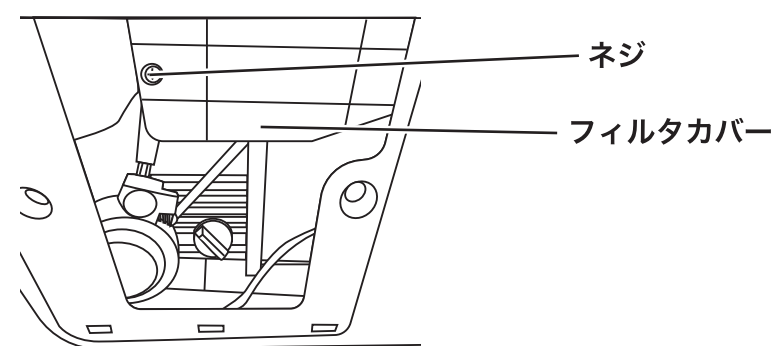
- ③マフラキャップをネジでとめます。

3.エアフィルタの清掃

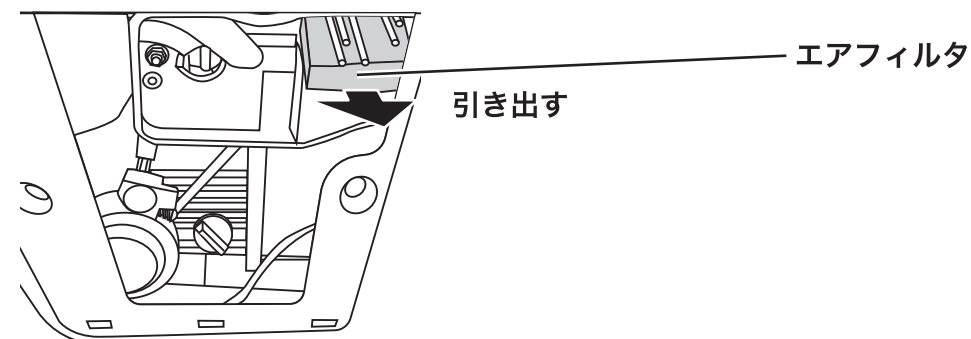
①メンテナンスカバーをとめているネジを外し、メンテナンスカバーを外します。



②フィルタカバーをとめているネジを外します。
※ネジやフィルタカバーを本体内に落とさないように注意して作業を行ってください。



③フィルタカバーを外し、エアフィルタを取り出します。



④エアフィルタに付着しているゴミやホコリを取り除いてください。
※汚れのひどい場合には灯油などでエアフィルタを洗浄してください。

使用方法

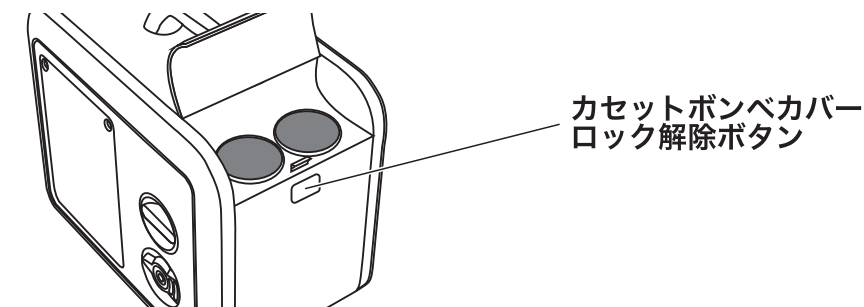
1.エンジンの始動

警告

- ❗ エンジンを始動させる前に必ず各部の点検を行ってください。
- ❗ 作業は身軽な服装で行ってください。手袋・ネクタイ・袖口の開いた服装などは、可動部に巻き込まれる恐れがあり大変危険です。
- ❗ 屋内や倉庫などの換気の悪い場所では使用しないでください。また、風通しの悪い場所や排気のこもる場所でも使用しないでください。一酸化炭素が溜まり、ガス中毒の原因となります。
- ❗ 本機は水平で安定した場所で使用してください。傾斜地で使用しますと、本体が移動する恐れがあり火災や事故の原因となります。
- ❗ 使用する電気機器の負荷によっては、本体の振動が大きくなり本体が多少動く場合があります。その場合は本体を水平で安定する場所に移動してご使用ください。
- ❗ 雨などが降っているときの屋外、水がかかる場所、湿った場所、濡れた場所での使用は避けてください。本機を水につけたり、かけたりしないでください。
- ❗ 濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。
- ❗ 電気機器を接続したまま発電機を始動させないでください。
- ❗ 使用方法・作業方法・周囲状況などに十分に注意をして使用してください。軽率な行動は事故やケガの原因となります。

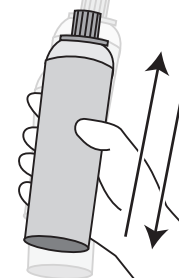
- ・外気温5～40℃の範囲で使用してください。使用温度範囲外では、本機は使用できません。外気温5℃以下になるとエンジンに必要なガスの気化量が不足し、エンジンが停止することがあります。40℃以上の場合にはカセットボンベの破裂の恐れがあります。
- ・標高1,500mを超えると酸素濃度が薄くなるため、ガスの噴出速度と点火のタイミングにズレが生じ、エンジンが停止することがあります。

①カセットボンベカバーロック解除ボタンを押して、カセットボンベカバーを開ける。



1)カセットボンベの残量確認

- ・カセットボンベをよく振ってください。振ることによりガスの残量を確認することができます。
- ・未使用のカセットボンベ2本での運転時間は約1時間です。但し、運転時間は使用環境によって変化します。
- ・エンジンが止まるまでカセットボンベ内のガスを使っても、カセットボンベ内に少量のガスが残る可能性があります。なお、冬季は夏季に比べカセットボンベ内に残留するガスが多くなる場合があります。

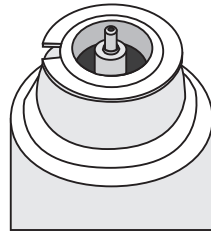


- ❗ 使用するカセットボンベは、「JIA」認証マーク入りのカセットボンベ(液化ブタン)を使用してください。「JIA」認証マークは、カセットボンベの外周に印刷されています。ただし低温時対応用のカセットボンベ(イソブタン)の配合を高めたものを除く。

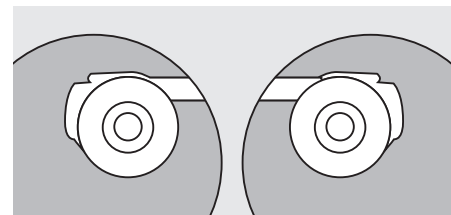
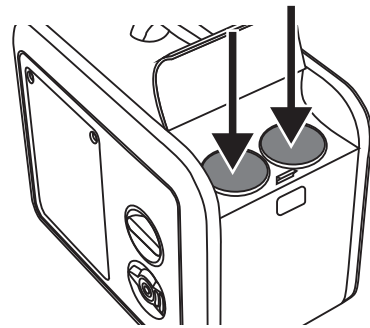


※このマークのないカセットボンベは規格としてこのエンジンに適合しないため、絶対に使用しないでください。

2)カセットポンベの頭部にゴミ、異物がないか確認してください。付着している場合は除去してください。



3)カセットポンベ取り付け部の口金の点検
下図矢印方向を覗いて、口金部に泥や砂などの汚れが付着している場合は長い綿棒などで拭き取ってください。

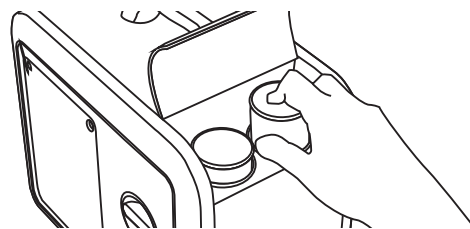


口金部

4)カセットポンベの取り付け

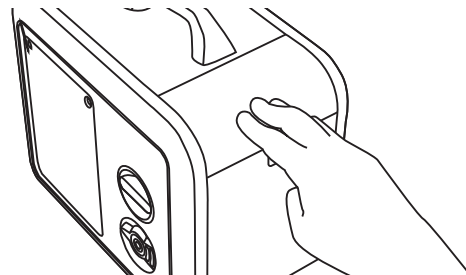
警告

！ エンジン始動前にはガス漏れ(ガス臭や、シューという異音など)がないことを確認してください。

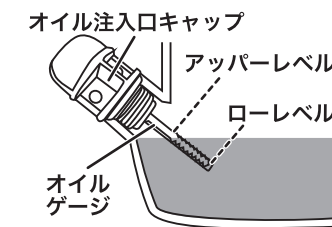


口金にガイド、方向はありませんので、カセットポンベを逆さにして、口金に突き当たるまで挿入してください。

5)カセットポンベカバーを閉じる



⑧オイル注入後、オイル注入口キャップを一度締めてから取り外して、オイルゲージのアップーレベルまでオイルがついていることを確認してください。



※この製品にはエンジンオイル量を検知する機器が内蔵されています。使用中エンジンオイルの量が少なくなると検知器が働き、エンジントラブル(焼き付きなど)を防ぐため、オイル警告ランプ(赤色)が点灯し、エンジンの運転を停止します。また、エンジン始動時にエンジンオイル量が少ないときも検知器が働いてエンジンが始動しません。ご使用前にはエンジンオイルが規定量入っていることをご確認のうえ、ご使用ください。

※オイル検知器はオイルの劣化を検知するものではありませんので、定期的にオイル交換を行ってください。

⑨オイル注入口キャップを締め、メンテナンスカバーをネジでとめます。

2.エンジンオイルの選びかた

推奨エンジンオイル

4 サイクル用エンジンオイル SF 級以上 SAE10W-30

4 サイクル用エンジンオイルに対応したエンジンオイルをお選びください。

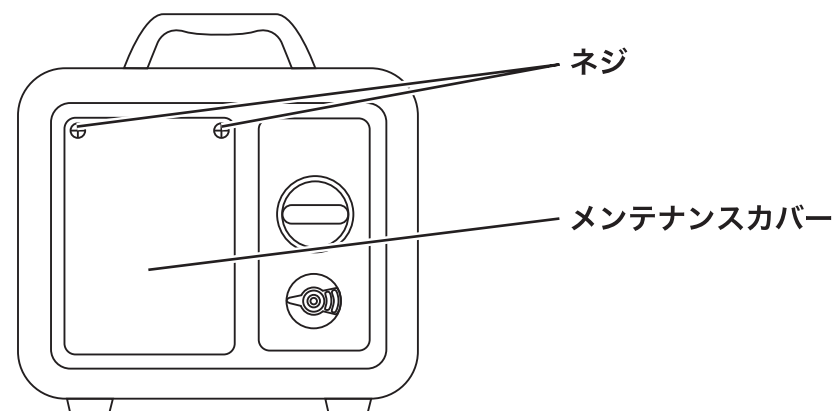
10W-30 の記載があるエンジンオイルをお選びください。

API 規格	ILSAC 規格
SE	
SF	
SG	
SH	GF-1
SJ	GF-2
SL	GF-3
SM	GF-4
SN	GF-5

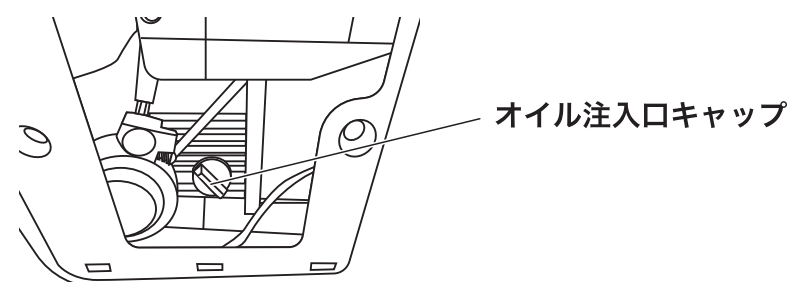
推奨規格

SF 以降、または、GF-1 以降のグレードをお選びください。

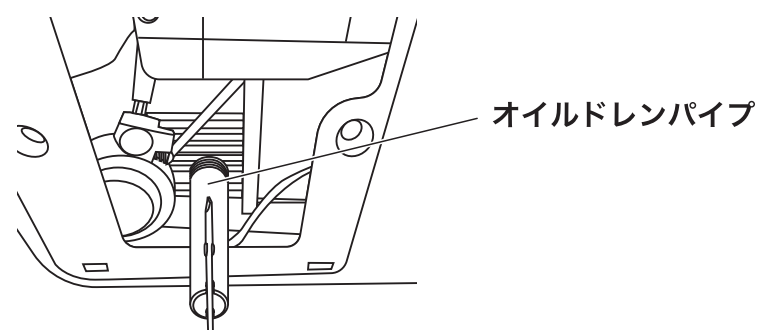
③メンテナンスカバーをとめているネジを外し、メンテナンスカバーを外します。



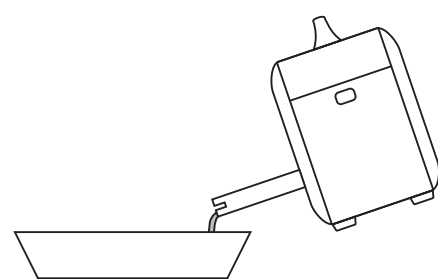
④オイル注入口キャップを外します。



⑤オイル注入口にオイルドレンパイプを取り付けます。取り付け・取り外しの際は、オイルドレンパイプの溝にドライバをはめ込むと取り付け・取り外し作業が行いやすいです。

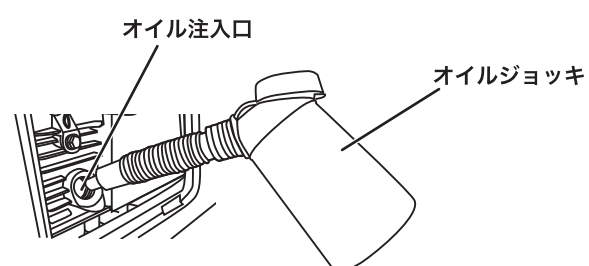


⑥廃油を受け取る容器(市販品)の上で本体を傾け、エンジンオイルを抜きます。



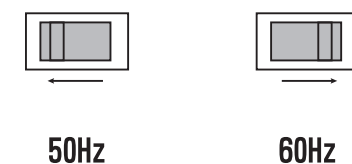
⑦オイルドレンパイプを取り外し、オイル注入口からオイルジョッキを使用してエンジンオイルを規定量入れてください。

エンジンオイル規定量	250ml
推奨エンジンオイル	4サイクル用エンジンオイル SF級以上 SAE10W-30



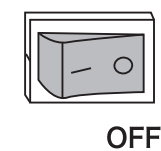
②周波数切替スイッチをご使用になる周波数に合わせます。
※周波数の切替は、必ずエンジン停止中に行ってください。

周波数切替スイッチ



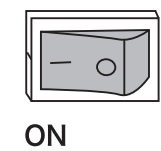
③エコモードスイッチをOFFにします。

エコモードスイッチ

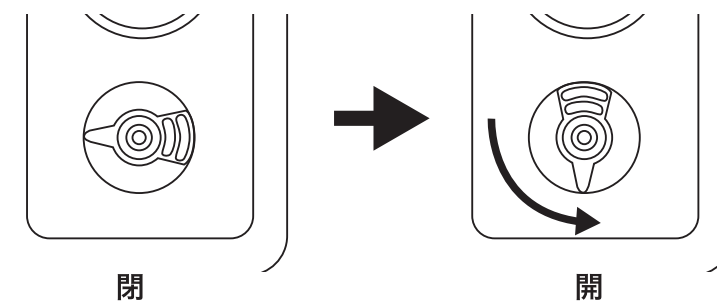
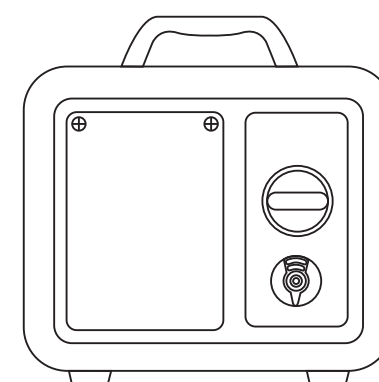


④エンジンスイッチをONにします。

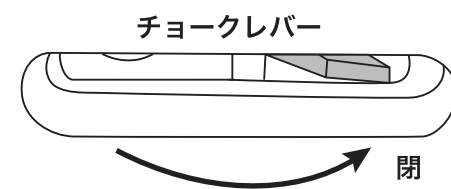
エンジンスイッチ



⑤燃料コックを開側にする。

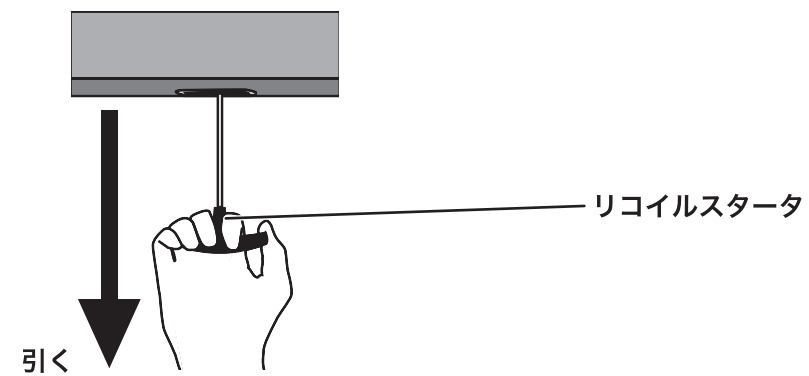


- ⑥チョークレバーを閉側にします。
エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを閉側にする必要はありません。



※エンジンがかかりにくい場合には、チョークレバーを少しずつ開きながら⑦を行ってください。
気温や、エンジンの温度等で調整が必要な場合があります。

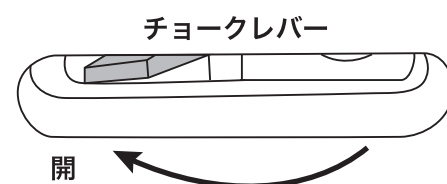
- ⑦リコイルスタータハンドルを軽く引き出し、リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく矢印方向に引いてエンジンを始動します。 ※約2分間暖機運転をします。



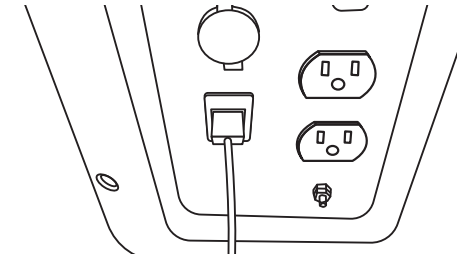
⚠ 注意

- ❗ リコイルスタータハンドルを引くときは、発電機が倒れないように手で発電機を押さえてください。
- ❗ リコイルスタータを勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛び、エンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- ❗ ロープいっぱい引き切らないでください。
- ❗ リコイルスタータハンドルは必ず指定方向に引いてください。無理な方向への操作は、ロープの寿命を著しく縮めます。
- ❗ リコイルスタータハンドルを戻すときは、手を放さずゆっくり戻してください。
- ❗ 運転中はリコイルスタータハンドルを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

- ⑧始動後、エンジンの回転数が安定したら、チョークレバーを徐々に開側にしてください。



- ③使用する電気機器のUSBプラグを発電機USB出力端子に差し込みます。



定期点検

対象	点検項目	始業点検	6ヶ月または100時間運転毎
エンジンオイル	オイル量の点検	○	
	交換		○(初回は20時間運転後)
燃料	量、漏れ	○	
エアフィルタ	点検、清掃		○(ほこりの多い場所は早めの点検)
マフラ	清掃		○
点火プラグ	点検、清掃		○

メンテナンス

⚠ 警告

- ❗ 機械類の点検や修理を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。また、点火プラグからプラグキャップを外してください。
- ❗ 点検はエンジンを停止して、平坦な場所で発電機が水平な状態で行ってください。

1.エンジンオイルの交換

- エンジンオイルが汚れているとエンジンの寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。
- 初回は20時間程度でオイル交換してください。その後は100時間を目安に交換してください。
- エンジンオイルは使用しなくても自然に劣化しますので、定期的に交換してください。
- 廃油は法令に従って適切に処理してください。不法投棄は絶対にしないでください。
- 廃油を受け取る容器(市販品)を用意してください。

- ①エンジンを始動し、2～3分暖機運転をする。
エンジンオイルが暖まって排出されやすくなります。

- ②エンジンスイッチをOFFにします。
※長時間運転後のエンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっているため、やけどの原因となります。
エンジンが冷えるまで待ってから行ってください。

5.USB電源の取り出し方

本製品のUSB出力端子は、スマートフォン、携帯電話機、ゲーム機、デジタルカメラなどの充電に使用することができますが、警告、注意の内容をご理解頂いた上でご使用ください。

⚠ 警告



禁止

発電機のUSB出力端子に電気機器を接続したまま発電機を始動させないでください。予期せぬ事故や感電の原因となります。



スマートフォン、携帯電話機、ゲーム機、デジタルカメラなどの電子機器は電圧に敏感で、インバータ発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用する場合は電気機器メーカーに相談してください。



スマートフォン、携帯電話機、ゲーム機、デジタルカメラなどの電子機器はエンジンノイズの影響(誤動作)を受ける場合は使用をお控えください。

⚠ 注意

- ・本製品のUSB出力端子に接続する機器の仕様などを取扱説明書でご確認の上でご使用ください。
- ・本製品のUSB出力端子は全ての機器の充電を保証するものではありません。
- ・本製品のUSB出力端子では、データの受信ができません。
- ・接続される機器に登録した各種メモリーは必ず控えを取ってからご使用ください。万一、本製品を使用しメモリーが破損、消失ししても、当社では責任を負いかねます。
- ・充電される端末機で電源が入らないなどで不具合が生じた場合に、ICカード内のデータやチャージマネーの保全、サービスの回復に関し当社では責任を負いかねます。
- ・接続される機器の損害などに関しましては、当社では責任を負いかねます。

Quick Charge™ 3.0は、従来の機器との互換性を保ちながら、対応した機器、ケーブルの場合には高速な充電を可能とするので、充電時間を短縮することができます。

USB出力

1口 最大12V-2Aまで

①エンジンを始動します。

②出力ランプ(緑色)が点灯していることを確認します。



出力ランプ

⑨出力ランプ(緑色)が点灯していることを確認します。



出力ランプ

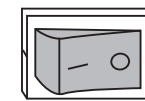
2.エンジンの停止

①電気機器のスイッチをOFFにします。

- ②交 流：電気機器のプラグを交流コンセントから抜きます。
 アクセサリーソケット：・直流バッテリー充電コードをバッテリー端子から取り出し(一側→+側の順)、
 アクセサリーソケットから直流バッテリー充電用コードのプラグを抜きます。
 ・アクセサリーソケットから直流電気機器のプラグを抜きます。
 U S B：USB出力端子からUSBケーブルのコネクタを抜きます。

③エンジンスイッチをOFFにします。

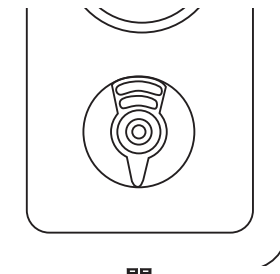
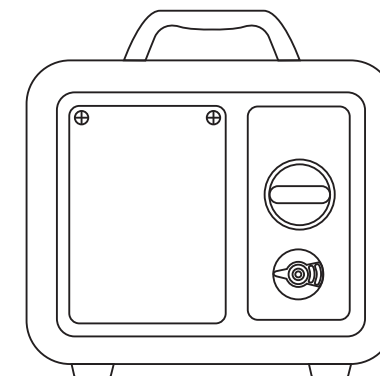
エンジンスイッチ



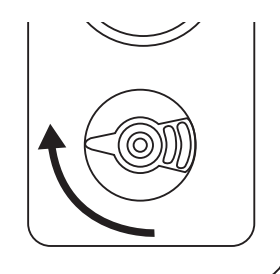
OFF

※エンジンスイッチをOFFにすると過負荷警告ランプが点灯してからエンジンが停止します。異常ではありません。

④燃料コックを閉側にします。



開



閉

⑤引き続き運転しない場合は、カセットボンベを取り外してください。

配管内のガスを抜くため、燃料コックを閉じたままエンジンを始動し、ガス欠でエンジンが停止した後にエンジンスイッチをOFFにします。

- ※1. ガス欠のときは、過負荷ランプが点灯して、しばらくしてからエンジンが停止します。
- ※2. 過負荷警告ランプが点灯したとき、①～⑤を実施してください。
- ※3. カセットボンベを取り外し、カセットボンベの残量を確認してください。
残量が少ない場合は、カセットボンベを残量のあるカセットボンベに交換して、再始動してください。
- ※4. カセットボンベの残量が十分残っていた場合は、P.15～P.16の交流電源の使用可能範囲をご確認いただき再始動してください。
- ※5. 引き続き運転しない場合は、P26 5.長時間使用しない場合の内容で配管内のガスを抜いてください。

⚠ 注意

！ 使用中、使用直後はカセットボンベやその周辺部が熱くなっている場合があります。十分冷めてからカセットボンベを取り外してください。

⚠ 警告

！ 運搬や保管、点検・整備時は必ず配管内の残留ガスを使い切ってください。配管内の残留ガスは、思わぬ事故につながる恐れがあります。

3.交流電源の取り出しかた



発電機のコンセントに電気機器を接続したまま発電機を始動させないでください。予期せぬ事故や感電の原因となります。



電子計算機類・電子制御式電動工具類の電子制御機器・マイコン付き機器・医療機器・充電器などの精密機械機器および充電器類は電圧に敏感で、インバータ式発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用する場合は、電気機器メーカーに相談してください。



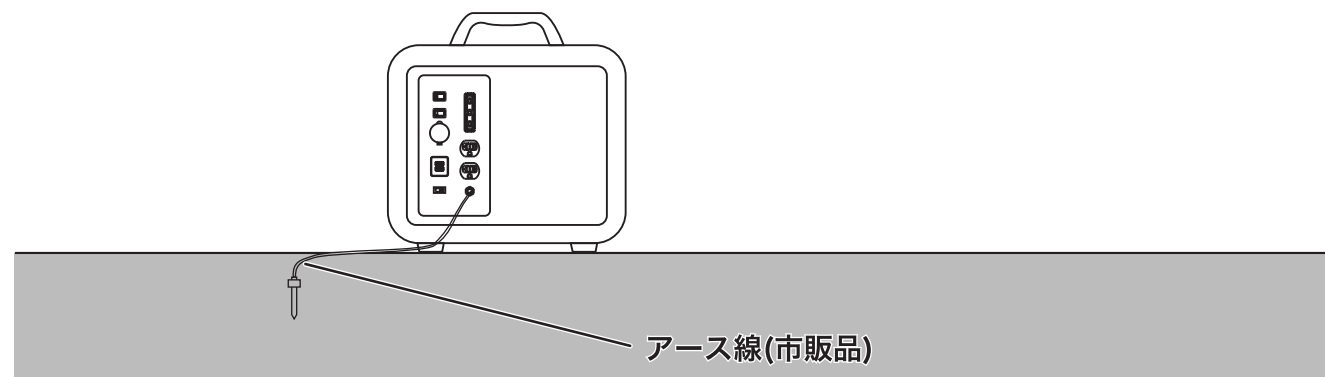
精密機器(パソコン・マイコン搭載機器・充電機器など)はエンジンノイズの影響(誤作動)を受けない距離まで離して使用してください。



安全に使用するために、発電機の能力に合った負荷で使用してください。過負荷で使用するると発熱し、発電機の故障や火災などの原因となります。

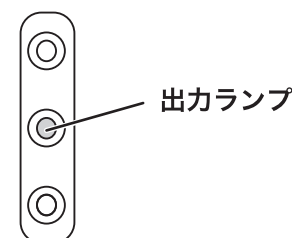
①アースについて

発電機に接続する電気機器を地面にアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。本体のアース端子にアース線(市販品)を接続し、アース線を先端の地中に埋めてください。



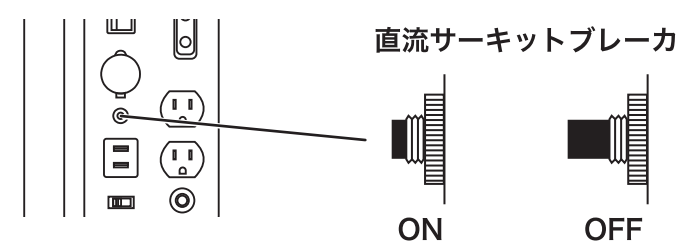
②エンジンを始動します。

③出力ランプ(緑色)が点灯していることを確認します。



②直流サーキットブレーカがONになっていることを確認します。

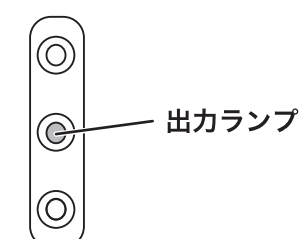
※直流サーキットブレーカがOFFになっている場合は、押し込んでONにしてください。



直流サーキットブレーカがOFFになると5mm程度飛び出します。飛び出しが2mm程度の場合はONの状態です。

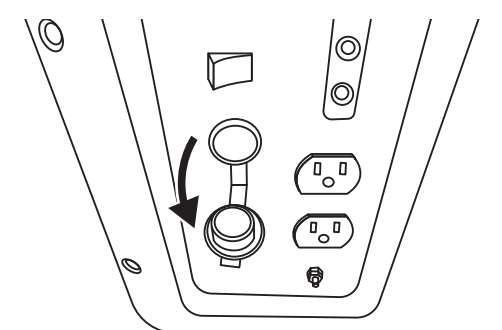
③エンジンを始動します。

④出力ランプ(緑色)が点灯していることを確認します。

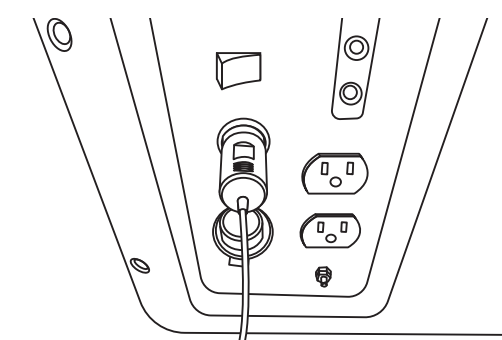


⑤接続機器にスイッチがあるものは、接続機器の電源がOFFになっていることを確認します。

⑥発電機のアクセサリースOCKETのフタを外します。



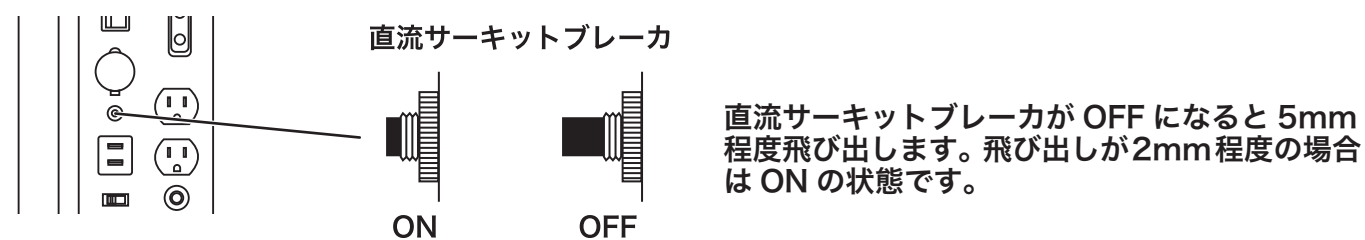
⑦発電機のアクセサリースOCKETに接続する電気機器の12VDCプラグ(市販品)を差し込みます。



アクセサリースOCKETの使用可能範囲(直流電気機器)

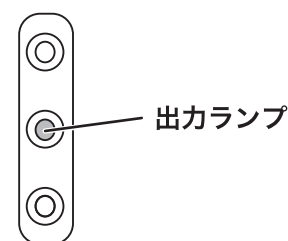
60Wまで

- ⑦直流サーキットブレーカがONになっていることを確認します。
※直流サーキットブレーカがOFFになっている場合は、押し込んでONにしてください。



- ⑧エンジンを始動します。

- ⑨出力ランプ(緑色)が点灯していることを確認します。



直流電源の使用可能範囲

12V-5Aまで

直流電気機器の接続

警告

- ！ 直流電気機器を接続する場合は、必ず接続する電気機器の電源がOFFになっていることを確認してください。

接続する電気機器の電源がONになっていると思わぬ事故や感電の原因になります。

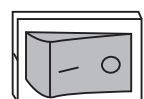
- ！ 発電機のアクセサリソケットと直流電気機器の12VDCプラグ(市販品)が奥まで差し込めない場合は使用しないでください。

ショートや故障の原因になります。

- ！ 発電機のアクセサリソケットは、自動車用のアクセサリソケットと同じ形状ですが、自動車用の直流電気機器が必ず使用できるわけではありません。接続した機器によっては動作に支障が出る場合があります。動作の可否が不明な場合は使用しないでください。

- ①エコモードスイッチをOFFにします。

エコモードスイッチ



OFF

- ④接続する電気機器のスイッチがOFFになっていることを確認して、電気機器の電源プラグを発電機の交流コンセントに差し込みます。

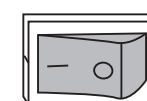
消費電流 10A まで(2つのコンセント合計)

- ※1つのコンセントを単独で使用する場合は10A以下でご使用ください。
※アクセサリソケット、USBの電気を同時に取り出す場合は8Aまで。

- ⑤電気機器の使用方法に従って電気機器のスイッチをONにします。
※使用する電気機器の負荷によっては、本体の振動が大きくなり本体が多少動く場合があります。その場合は本体を水平で安定する場所に移動してご使用ください。

- ⑥エコモードスイッチをONにします。

エコモードスイッチ



ON

- ※エコモードスイッチをONにすると、運転中の燃料消費量を抑えるため、必要な電力が少ない場合や電気機器のスイッチをOFFにしたとき、自動的に発電機のエンジンの出力が抑えられます。

- ※電力負荷の大きいものを接続する場合には、電圧の不安定化を抑えるためにエコモードスイッチをOFFにしてください。

交流電源の使用可能範囲

交流電源は電気機器ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気機器の消費電力(W)をお確かめの上、ご使用ください。

	使用電気機器	使用可能範囲	備考	※注意
交流	照明、電熱器、テレビ、ラジオなど	100V 1000W まで	力率=1	直流、USB電気の取り出しを併用する場合の交流電源使用可能範囲は左記の値から200Wを減じた範囲となります
	電動工具類	100V 800W まで	力率=0.8~0.95	
	汎用モータ類	100V 400W まで	力率=0.4~0.75	
直流	12V/バッテリーなど	12V~5A まで		
USB	スマートフォンなど	1口最大 12V-2Aまで	出力数 2 口	

- ・電動工具類・汎用モータ類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないものがあります。この場合は電気機器会社にご相談ください。

注意

- ！ 電気機器の消費電力が使用可能範囲を超えた場合は、過負荷警告ランプ(赤色)が点灯して電気の供給を遮断しますがエンジンは停止しません。過負荷警告ランプが点灯した場合には電気機器のスイッチをOFFにして差込プラグを抜き、電気機器に異常がないか、消費電力が表の範囲を超えていないか点検してください。発電を再開するときは、一度エンジンを停止し、エンジンを始動しなおしてから電気機器を接続し、電気機器のスイッチをONにしてください。



過負荷警告ランプ

※電動工具類のモータを使用した機器では起動電力が大きい場合があり、定格の3～5倍の電力を必要とすることがあります。したがって、機器の種類によっては消費電力800W以下でも使用できないことがあります。

※延長コードを使用すると、電線の抵抗が大きくなり、出力電圧が低下します。このまま電気機器を接続して使用すると、電気機器が故障したり、運転ができない場合がありますので注意してください。

4. 直流電源の取り出しかた

警告



発電機のアクセサリースOCKETで12Vバッテリーに充電するときは付属の直流バッテリー充電用コード以外は挿入しないでください。
発熱、発火や火災、破裂、感電、ケガの原因になります。



充電するバッテリーの説明書を熟読してください。



12Vバッテリーの充電は、風通しの良い場所で行ってください。



12Vバッテリーは引火性のガスを発生させますので取り扱いを誤ると爆発事故やケガの原因になります。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。



12Vバッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な障害を受けることがあります。

応急手当

■万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。

■目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。



12Vバッテリーの液面が下限以下のままで使用または充電しないでください。液面が下限以下のままで使用または充電すると12Vバッテリーの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因になる恐れがあります。



カーバッテリーに充電するときは、12Vバッテリーの充電以外には使用しないでください。
発熱、発火や火災、破裂、感電、ケガの原因になります。



密閉式バッテリーには専用の充電器が必要です。密閉式バッテリーには接続しないでください。



12Vバッテリー充電中に12Vバッテリーから電気を取り出したり、12Vバッテリー充電中に車のスタータモータを回すなどしないでください。
大電流が流れ、付属の直流バッテリー充電コードやカセットガス発電機本体の故障の原因になります。



直流バッテリー充電用コードを12Vバッテリー端子に接続し、12VDCプラグをアクセサリースOCKETに差し込んでから発電機のエンジンを始動してください。



発電機を停止してから12VDCプラグを抜いて、直流バッテリー充電用コードを12Vバッテリー端子から取り外してください。



12Vバッテリーに充電するときは、12Vバッテリーに接続されているコードは全て取り外してから行ってください。外すときはマイナス(－)側から外し、接続はプラス(＋)側から行ってください。誤るとショートする場合があります。



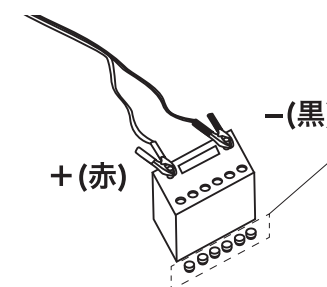
アクセサリースOCKETを使用する場合はエコモードスイッチをOFFにしてください。

12Vバッテリーへの充電

①バッテリーに接続されているコードやチューブを外し、バッテリーを取り外します。

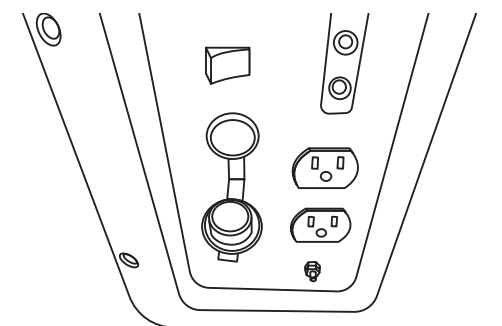
②バッテリーの液注入口栓を外して、液量を点検します。比重計でバッテリー液の比重を測定します。
※充電時間はバッテリーの種類、放電時間によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重をチェックしながら充電してください。バッテリー液の比重が1.26～1.28になれば充電完了です。

③付属の直流バッテリー充電用コードのクリップを12Vバッテリーに接続します。
※クリップの赤が＋、黒が－です。＋と－の極性を間違いなく接続してください。誤って接続するとショートする場合があります、爆発事故やケガの原因となります。
※＋側から接続してください。

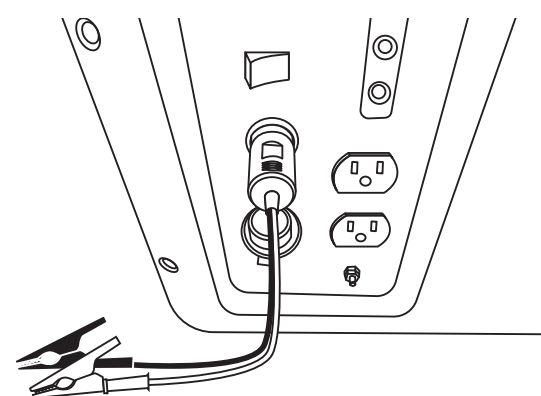


液注入口栓は取り外して充電してください。充電時ガスが発生するため液注入口栓を取り外さないと破裂する恐れがあります。風通しのよい場所で行ってください。

④発電機のアクセサリースOCKETのフタを外します。

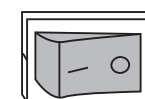


⑤発電機のアクセサリースOCKETに付属の直流バッテリー充電用コードの12VDCプラグを差し込みます。



⑥エコモードスイッチをOFFにします。

エコモードスイッチ



OFF